

式 辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の光が大地に満ち、校庭の木々、桜の芽も膨らみ始め、肌をなぐる風にも、春の暖かさが感じられる、今日のよき日。本来でしたら来賓の方々を迎える華やしい中、みなさんの晴れ姿をお披露目するところですが、新型コロナウイルスの対応のため、来賓の臨席もかなわない卒業式となりました。しかしながらみな様方には、大阪市立玉出中学校「第67回卒業式」を、挙行できますこと、卒業生と共に厚く御礼申し上げます。

また、保護者のみな様におかれましては、お子様のご卒業おめでとうございます。3年前、67期生として、玉出中学校の門をくぐられた時は幼かったお子様が、今、こうして心身ともに、逞しく成長されました。その姿を目の当たりにされ、さぞお喜びのことと存じます。子どもから大人への「架け橋」ともいえる、多感なこの時期、お気遣いや、ご苦労があったこととお察し申し上げます。

お子様の卒業後も、玉出中学校を、温かく見守って頂きますよう、お願ひ申し上げます。

残念ながら各クラス代表者への授与となりましたが、99名の卒業生に卒業証書をお渡しいたしました。

9年間の義務教育を終え、様々な課題もありますが、ラグビーワールドカップに始まり、東京オリンピック、ワールドマスターズゲーム、大阪万国博覧会等々、大きな催し物が待っている日本、そして、国際社会に向けて、旅立つ日を迎えることになりました。君たちは、これから日本を支える、大切な宝物です。しっかりと目標を持って、前に前にと、進んで欲しいと願っています。また、みなさん一人ひとりの胸中には、玉出中学校の、三年間の数々の思い出が、走馬灯のように、駆け巡っていることだと思います。

私は、君たちは2年間の付き合いですが、今、君たちを送り出すことに、感慨深いものがあります。この2年間は、私にとっても、素晴らしい出会いがあり、たくさん思い出がありました。

2泊3日、広島・愛媛への修学旅行、平和記念公園でのフィールドワークと平和

セレモニー。3日目のラフティングも忘れられませんが、1日目から2日目にかけての普段味わえない田舎での民泊体験では、各家庭での手伝いや、食事・お風呂等楽しいひと時を過ごすことができました。修学旅行の中で、何よりも人のやしさ・暖かさを学んだことが、一番の収穫であったと思います。

体育大会も残念な結果となりました。大雨警報による中止で、体育馆での学年演技のみの発表会となりました。しかし、3年生の学年演技「ソーラン節」は、見るものに感動を与え、胸を張り誇れるものでした。1・2年のときから集団づくりを大切に考え、生徒たちの自主性を尊重し、「生徒が主役」の体育大会を目指し練習をしてまいりました。その結果、あなた達の演技は、新生玉出中学校を象徴する内容でした。「なかま」を感じられた瞬間ではなかったでしょうか。

文化祭も、素晴らしい物ができました。修学旅行でやり残した物を、総合芸術として、展示物や各クラス・学年コーラスで発表することができました。みんなで協力することの、大切さがわかつたことと思います。

地道な活動の積み重ねが、伝統を育み、玉出中学校の「真の力」となっています。

苦しかった部活動、夏の暑さ、冬の厳しい寒さ、しんどくつらい練習に耐え、大きく成長した君たちを見ていると、「よく頑張ったね」と、心の中で、君たちの頑張りを褒めていました。みなさんにとっても、今となっては、良い思い出として、残っていることでしょう。

伝統ある、この玉出中学校、君たちが繋いだものが、詩となり、自信となって、生き続けるよう、在校生と共に、守り育てて行きたいと考えています。これからも自分たちの、生きていく街・地域を大切にしてください。

67期生のみなさん、そろそろ別れの時が来たようです。

最後にみなさんに一篇の詩を贈りたいと思います。これから紹介する詩は、私の好きな童話作家、小泉吉宏（こいずみよしひろ）さんの「一秒の言葉」という詩です。

「はじめて」この一秒ほどの短い言葉に

一生のときめきを感じことがある

「ありがとう」この一秒ほどの短い言葉に

人の優しさを知ることがある

「がんばって」この一秒ほどの短い言葉で

勇気がよみがえってくることがある

「おめでとう」この一秒ほどの短い言葉で

しあわせにあふれることがある

「ごめんなさい」この一秒ほどの短い言葉に

人の弱さを見ることがある

「さようなら」この一秒ほどの短い言葉が

一生の別れになることがある

一秒に喜び 一秒に泣く 一生懸命一秒

私たちは一秒の一つの言葉で、どれだけのことを伝えることができるでしょうか。

一秒に込められた気持ちが伝わってくるとても素敵で優しく、私の大好きな詩の一つです。先生は、集会のたびにあいさつの話をしてくれました。あいさつの大切さとともに重要さをみなさん伝えてきたつもりです。

また、先生の好きな言葉の「一瞬懸命」(一瞬一瞬に一生懸命全力を尽くす)もお話をすることがあると思います。いつも使うこれらの日本語こそ、私たちが忘れてしまった美しい日本語のような気がします。言葉は、自分と人とをつなぐ大切なものです。「ありがとう」これほど美しい日本語はないと思います。「さようなら」これほど心に響く日本語はないと思います。

言葉は、人を幸せにしたり不幸にしたりします。人を幸せにする言葉をたくさん使いたいものです。

新しい世界に旅立つみなさんと、この玉出中学校で生活したこと、ともに汗を流したこと、そして、「人にやさしい教育・人にやさしい玉出中生を育てる」を、一緒に学んだことを、「チーム玉出」を誇りに思っています。

それでは卒業生のみなさん、みなさんの青春の思い出が一杯詰まった、この玉出中学校を、忘れないでください。みなさんの未来が、輝かしく、幸多いことを心より祈念して、式辞といたします。

令和2年3月13日 大阪市立玉出中学校 校長 村瀬 香織